

第3章 調査対象地区の概要

1. 豊田市梨野地区

(1) 位置

愛知県豊田市大野瀬町梨野地区は矢作川上流域に位置し、豊田市中心部から国道153号で北東に約50 km離れた里山地域である。北は岐阜県恵那市、東は長野県根羽村に隣接する。矢作川は長野県根羽村から大野瀬町に入り、野入川と合流し北上し、大桑谷川、大沢川と合流して南西に流下する。梨野地区周辺では川沿いの低地や谷間が耕作され、微高地に小規模の集落が立地している。



図 3-1：流域内位置図



図 3-2：位置図

(2) 自然環境の概況

1) 気候

稲武（北緯 35 度 12.7 分、東経 137 度 30.4 分）の平成 21 年（2009 年）の年間気象状況は、年平均気温 12.0℃、年間降水量 1953.5mm、最高気温 32.8℃、最低気温-7.8℃であり、愛知県内では降水量の多い地域に属し、年間の気温差が大きく内陸性の気候を示す。

表 3-1：稲武の年間気象状況（2009 年）

月	降水量 (mm)	日平均気温 (℃)	最高気温 (℃)	最低気温 (℃)
1	118.5	0.7	15.3	-7.8
2	105.0	3.5	16.2	-6.6
3	216.0	4.9	20.3	-3.5
4	143.5	10.4	25.6	-4.0
5	278.5	15.5	28.8	3.1
6	213.0	19.0	29.9	6.8
7	260.0	22.8	31.3	15.9
8	112.0	23.4	32.8	15.1
9	48.5	19.6	32.1	8.5
10	183.0	13.1	24.6	3.3
11	199.5	8.4	22.7	-1.4
12	76.0	2.8	14.2	-6.2
年間	1953.5	12.0	32.8	-7.8

出典：気象情報統計

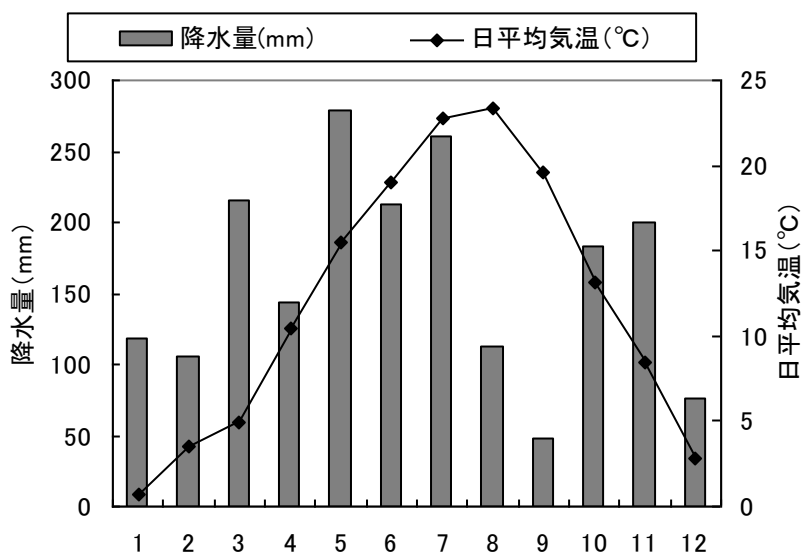
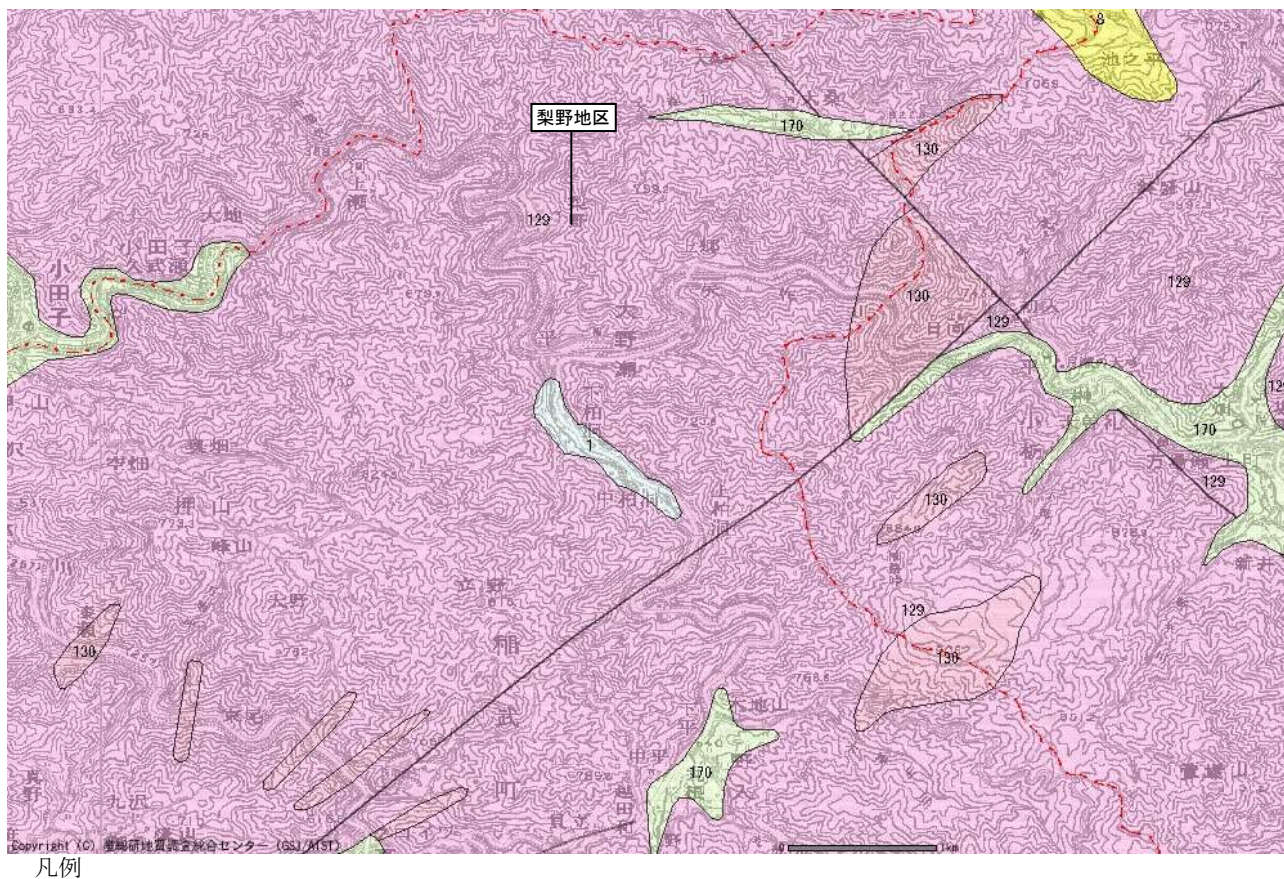


図 3-4：稲武の月別平均気温と降水量（2009 年）

気象情報統計より作成

2) 地形・地質

大野瀬町一帯は木曽山系の南端にあたり、中央構造帯より北側に位置する三河山地に属する。三河山地は三河高原とも呼ばれ、山地の稜線部は幅広く丸みを帯び、地形の起伏が少なく山麓斜面も比較的緩やかな傾斜であるという地形的特徴があり、隆起順平原面と考えられている。地質は珪長質深成岩類（花崗岩）で、土壌は大部分が砂質土壌または壤土であり、恵まれた雨量とともに樹木の育成に適しているため、古くよりヒノキを主とした人工造林が行われてきた¹。



1	後期更新世～完新世（約 1 万 8000 年前～現在）の堆積岩類（海成及び非海成層）
8	前～中期中新世（約 2200 万年前～1500 万年前）の堆積岩類（海成及び非海成層）
129	後期白亜紀（約 1 億年前～6500 万年前）の珪長質深成岩類
130	前～後期白亜紀（約 1 億 2000 万～9000 万年前）の珪長質深成岩類
170	後期更新世（約 7 万年前～1 万 8000 年前）の低位段丘

図 3-5：地質区分図

出典：産業技術総合研究所地質調査総合センター「シームレス地質図データベース」

3) 植生

梨野地区一帯にはスギ植林、コナラ群落が広く分布し、矢作川に沿って農地が連続するとともに、わずかにサカキーコジイ群集の自然林が残る。

巨樹・巨木調査（昭和 63 年、第 4 回自然環境保全基礎調査、環境庁自然保護局、平成 16 年、第 6 回自然環境保全基礎調査、環境省自然環境局）では、大野瀬神社のイチョウ、大野瀬宮ノ越のスギ、大野瀬のスギが調査対象となっている。

¹ 稲武町史－自然－本文編（1996）稲武町教育委員会、稲武町史－資料編近現代－（1999）稲武町教育委員会



図 3-6：植生区分図

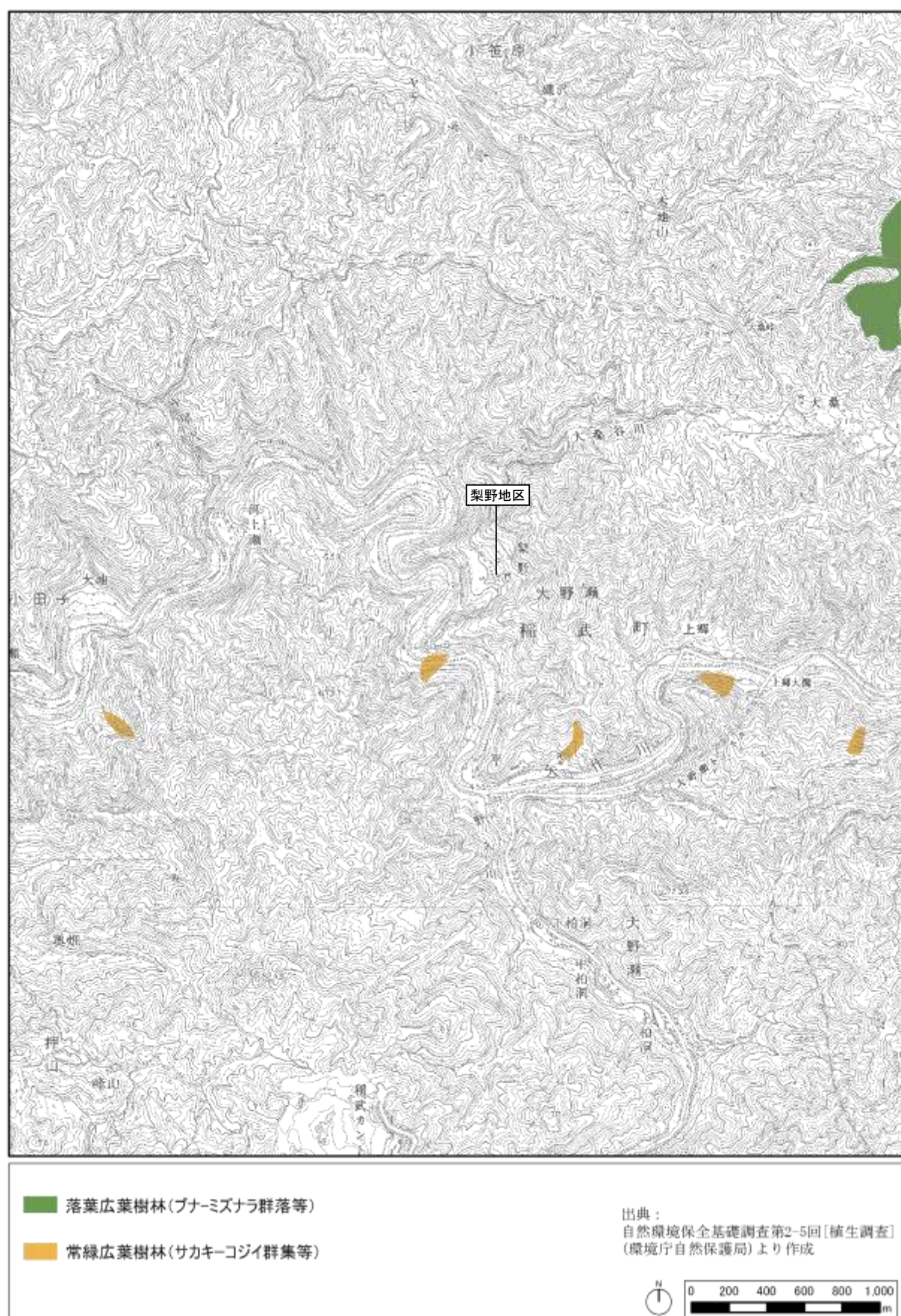


図 3-7：自然林・自然草原の分布

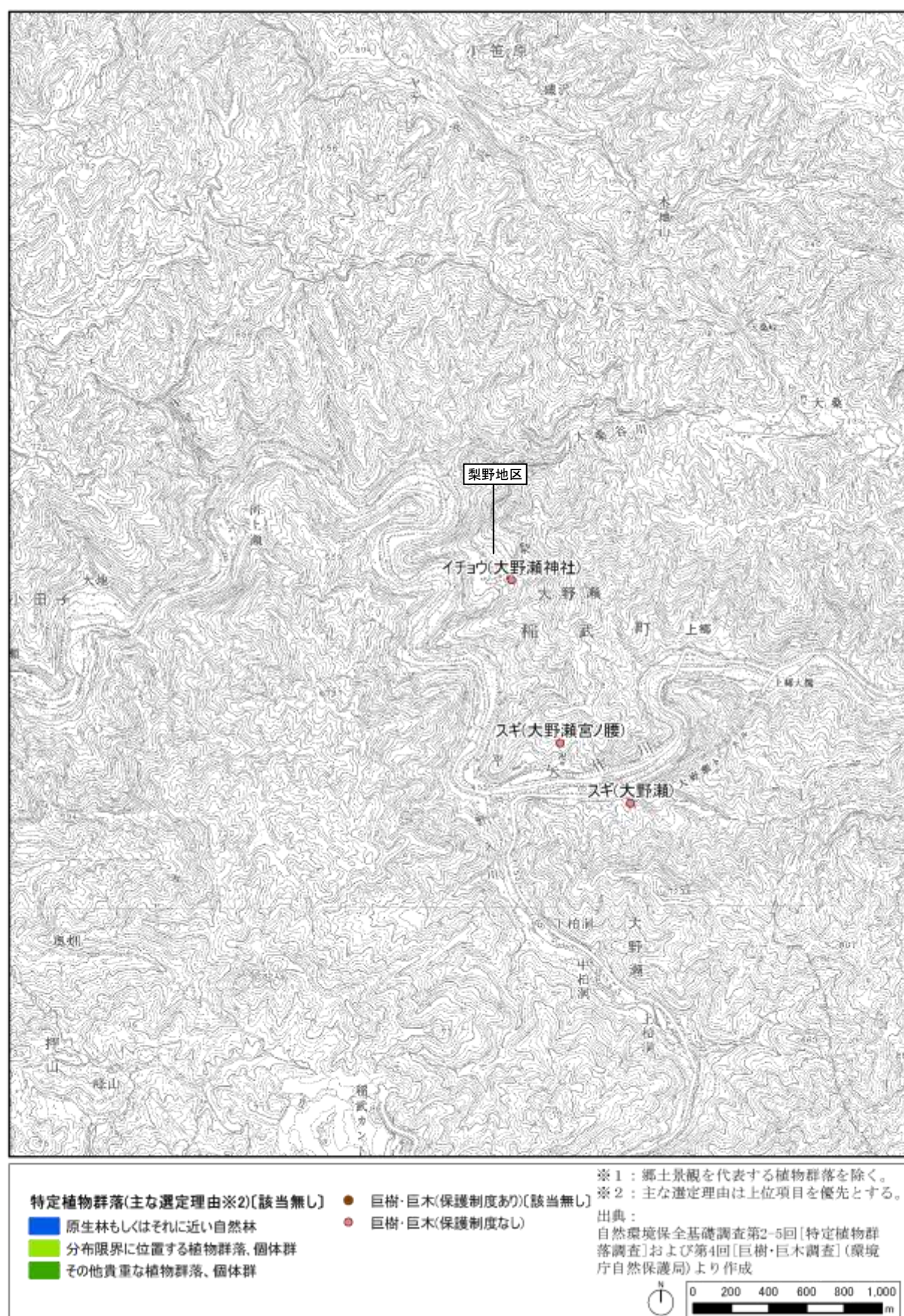


図 3-8：特定植物群落、巨樹・巨木の分布

(3) 社会環境の概況

1) 人口

平成 17 年国勢調査では、大野瀬町の人口は 236 人、世帯数は 84 世帯であり、高齢化率（65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）が 42.37%と高い。平成 22 年（2010 年）11 月現在の平均年齢は 60.28 歳で、男女ともに生産年齢人口（15-64 歳）が少なく、高齢化が深刻化している。また大野瀬町の平成 17 年（2005 年）から平成 20 年（2008 年）の人口増減率は-10.29%、世帯の増減率は-3.61%で、人口および世帯数は減少傾向にある。

表 3-2：大野瀬町の人口・世帯数（国勢調査）

	人口総数 (人)	性別人口(人)		年齢別人口(人)			世帯数 (世帯)
		男	女	15歳未満	15～64歳	65歳以上	
人口・世帯数	236	119	117	15	121	100	84
総数を占める割	100.00%	50.42%	49.58%	6.36%	51.27%	42.37%	-

出典：平成 17 年国勢調査

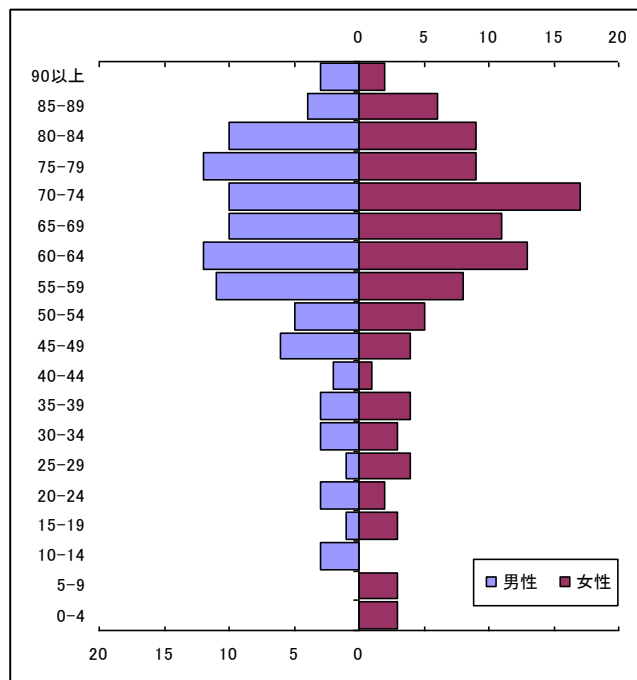


図 3-9：大野瀬町年齢別人口と平均年齢（2010 年 11 月 1 日現在）

出典：豊田市資料より作成

表 3-3：大野瀬町の人口・世帯数の推移

	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年	増減数 (平成17～20年)	増減率 (平成17～20年)
人口(人)	243	236	223	218	△ 25	-10.29%
世帯(世帯)	83	81	79	80	△ 3	-3.61%

※増減数(平成17年～20年)＝平成20年人口(世帯数)－平成17年人口(世帯数)

※増減率＝増減数(平成17年～20年)／平成17年人口(世帯数)×100

出典：住民基本台帳

2) 土地利用

梨野地区の集落は、矢作川上流域の切り立った谷のわずかに開けた緩やかな斜面に立地する。標高500-600mで、周囲は広葉樹林、針葉樹林に囲まれている。緩やかな斜面と矢作川の谷幅を上手く利用して、稲作、畑作、茶栽培等が営まれ、多種多様な品目が作付されている。集落の南東には大野瀬神社が祀られ、境内にはイチョウの大きな木があり神木となっている。

梨野地区周辺の土地利用をみると、森林が大部分を占め、矢作川に沿って田とその他の農用地が立地している。



図 3-10 : 土地利用平面図



図 3-11 : 断面模式図



集落全景



集落背後の里山林



多様な作物が栽培されている斜面の畑地

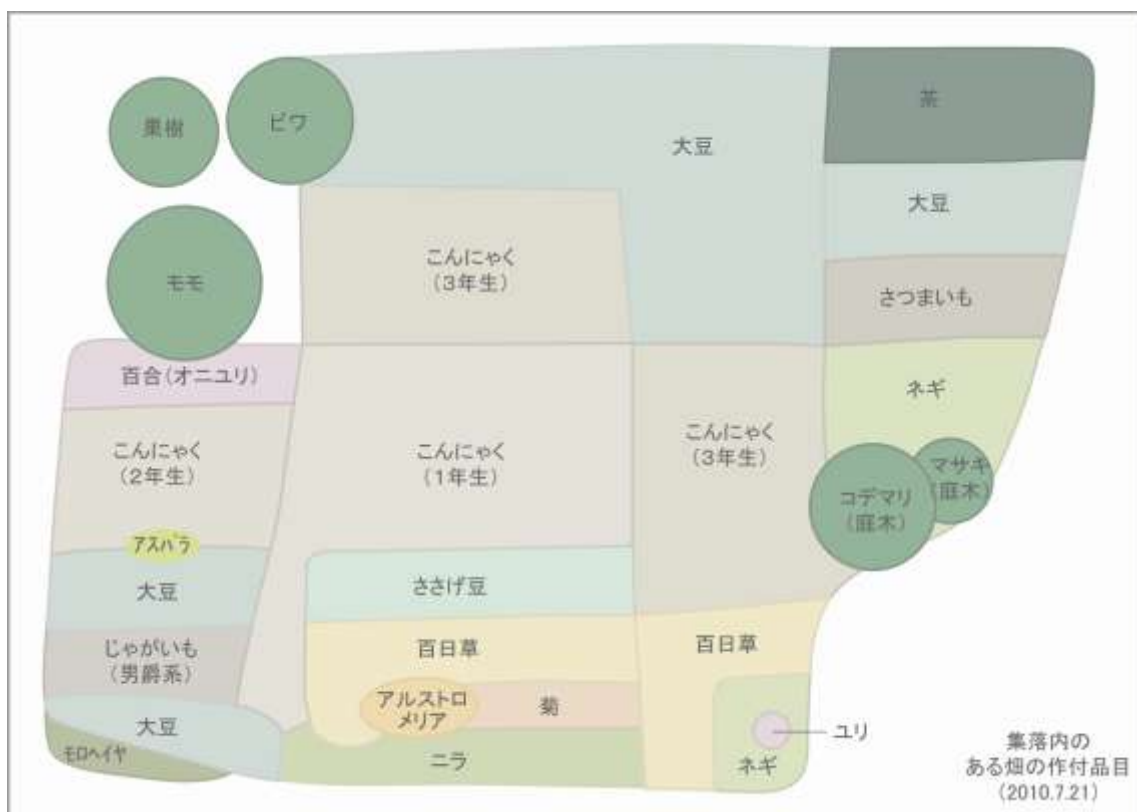


図 3-12 : 集落内の農地と畑の作付品目

こんにゃく、大豆などのいも・雑穀・豆類をはじめ、百日草などの花卉やビワ、モモなどの果樹など、多種多様な作物が栽培されている



集落下の矢作川



集落向かいの山々



集落の眺望



川沿いの農地



大野瀬神社



大野瀬神社からの眺望



山すその墓



集落内の地蔵

図 3-13 : 集落の様子

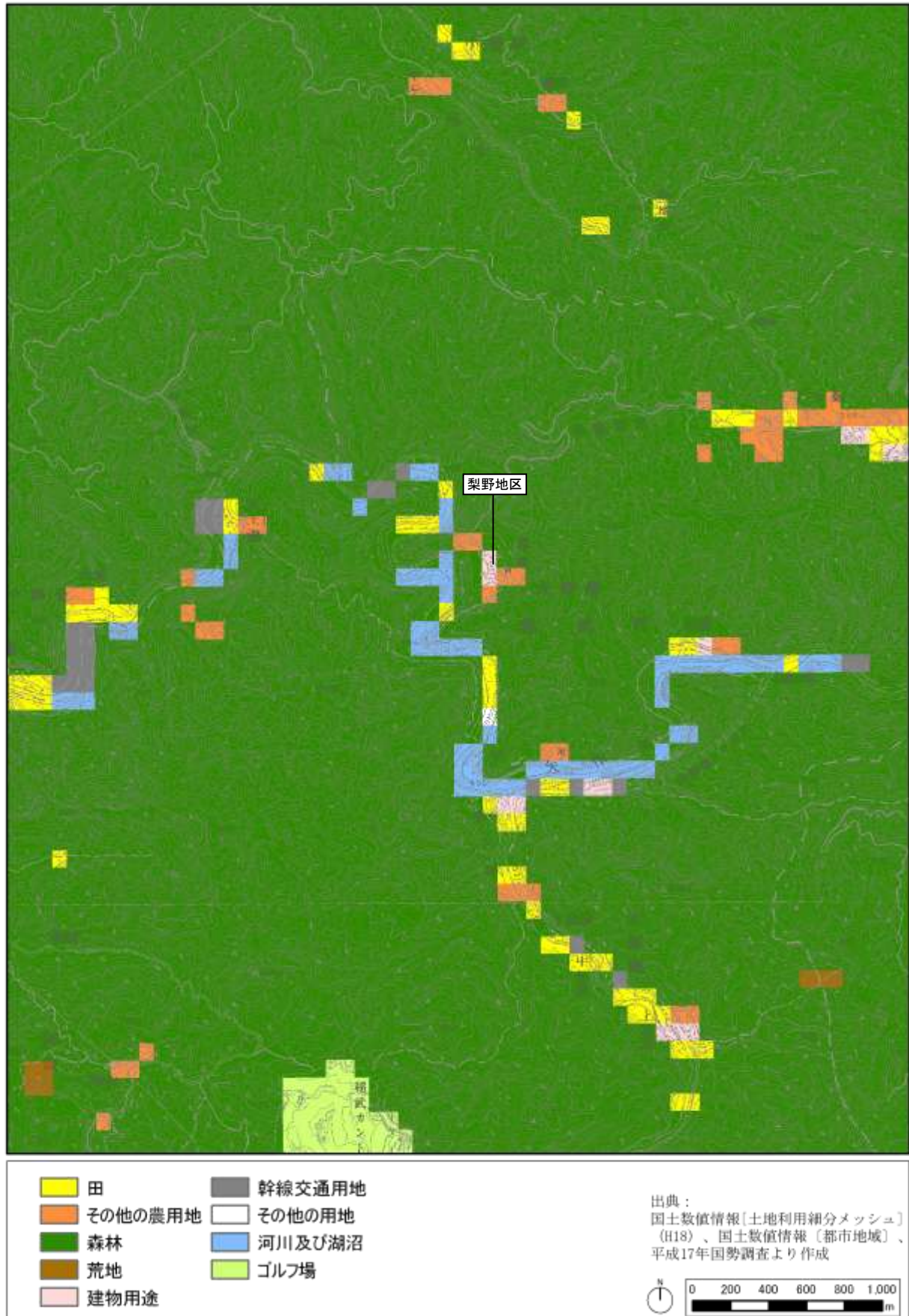


図 3-14：土地利用図

3) 産業

大野瀬農業集落(山間農業地域)の平成17年(2005年)の農家数は58戸(うち販売農家数26戸)で県平均²農家数(26戸)を大きく上回るが、平成7年(1995年)と比べた販売農家の増減率は-39.53%であり、販売農家は大きく減少している。平成17年(2005年)の農家人口は195人で県平均農家人口(113人)を上回るものの、経営耕地面積は13haで県平均経営耕地面積(16ha)を下回る。就業状態別世帯員数をみると、「その他の仕事为主の人」が39.02%と最も多い。



図3-15 大野瀬農業集落

表3-4：大野瀬農業集落の農家数

	都府県平均(2005)	県平均(2005)	2005年	2000年	1995年	増減数(※1)	増減率(※2)
総戸数(戸)	...	...	...	84	...	-	-
総農家数(戸)	20	26	58	59	61	△3	-4.92%
販売農家数(戸)	14	15	26	39	43	△17	-39.53%

※1: 増減数=2005年農家数-1995年農家数

※2: 増減率=増減数/1995年農家数×100

出典：農林業センサス

表3-5：大野瀬農業集落の農家人口

	都府県平均(2005)	県平均(2005)	2005年	2000年	1995年	増減数(※1)	増減率(※2)
男女計(人)	82	113	195	201	220	△25	-11.36%
男計(人)	40	55	101	103	114	△13	-11.40%
女計(人)	42	58	94	98	106	△12	-11.32%

※1: 増減数=2005年農家人口-1995年農家人口

※2: 増減率=増減数/1995年農家人口×100

出典：農林業センサス

表3-6：大野瀬農業集落の耕地面積

	都府県平均(2005)	県平均(2005)	2005年	2000年	1995年	増減数(※1)	増減率(※2)
所有耕地面積(ha)	21	20	20	...	...	-	-
耕作放棄地面積(ha)	3	3	6	...	...	-	-
経営耕地面積(計)(ha)	19	16	13	17	20	△7	-35.00%
経営耕地面積(田)(ha)	13	10	11	15	17	△6	-35.29%
経営耕地面積(畑)(ha)	4	5	2	3	2	0	0.00%
経営耕地面積(樹園地)(ha)	2	1	0	0	0	0	-

注: 所有耕地面積、耕作放棄地面積は総農家+土地持ち非農家。経営耕地面積は販売農家。

※1: 増減数=2005年耕地面積-1995年耕地面積

※2: 増減率=増減数/1995年耕地面積×100

出典：農林業センサス

表3-7：就業状態別世帯員数

農業集落名	就業状態別世帯員数(15才以上)(人)					
	計	自営農業 だけに従事 した人	自営農業 が主の人	その他の 仕事为主 の人	その他の 仕事だけに 従事した人	仕事に従 事しなかつ た人
大野瀬	82	23	11	32	9	7
(総数を占める割合)	100.00%	28.05%	13.41%	39.02%	10.98%	8.54%

出典：農林業センサス

4) 文化財

梨野地区の大野瀬神社のイチョウは昭和58年(1983年)11月に市指定天然記念物に指定されている。また周辺地域では、大野瀬の子持桂や大安寺のシダレザクラが天然記念物に指定されている。

稲武大安寺遺跡は、平集落の大安寺に隣接し、縄文式の土器片と竪穴住居跡一基がみられた。

² 県平均：該当都道府県内のうち、全域が市街化区域の農業集落を除いた農業集落の平均値をいう
都府県平均：北海道を除く全国の平均値をいう(全域が市街化区域の農業集落を除く)

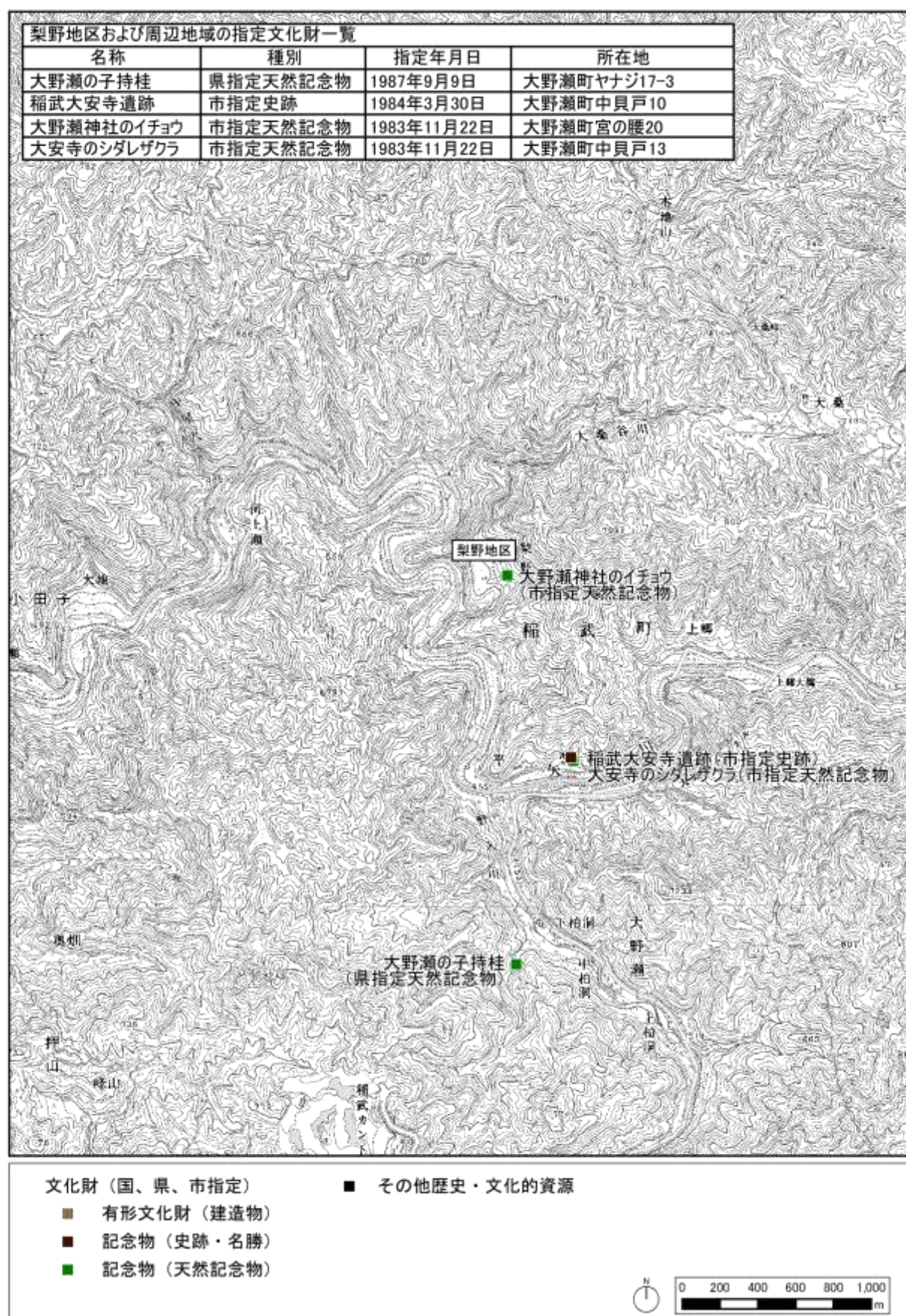


図 3-16：文化財・歴史的資源の分布

表 3-8：大野瀬神社のイチョウ他

指定区分	市指定
指定年月日	1983 年 11 月 22 日
所在地・所有者	大野瀬神社
樹高・根回り 胸高囲	樹高 36.1m 根回り 13.6m 胸高囲 5.75m
概要	・ 稲武地区最大のイチョウ。樹齢推定 200 年。 ・ メスの木で秋には沢山の実をつける。 ・ 冬は樹の落葉層が 10 c m 位になり、かなりの葉数があるものと思われる。 ・ 枝は開度 90 度で 1 列 10 本位が縦に列をなしている。 ・ 葉は径 4 c m とやや小型である。



出典：豊田市郷土資料館資料より作成



大野瀬の子持桂

大野瀬の子持桂は、スギの植林地に接した谷川沿いの斜面に生えており、樹高 27.5m、ひこばえの最大のは目通り 1.8m、細いものは 0.2m、ひこばえ群の外周は目通り 17.5m に及ぶ。

出典：愛知県資料



大安寺のシダレザクラ

長野県境に程近い大野瀬地内にある、瑞龍寺と同じく稲武地区を代表する桜。樹齢約 250 年と伝えられ、樹高約 15m 根周り約 3.2m。

出典：豊田市資料

(4) 法制度

ア) 保安林および国有林・民有林

集落を取り囲むように民有林が広く分布し、矢作川に沿いの森林の大部分が保安林に指定されている。

イ) 農地

矢作川に沿って農業地域が連続し、農用地区域が点在する。梨野地区の南西側の農地は、農用地区域に指定されている

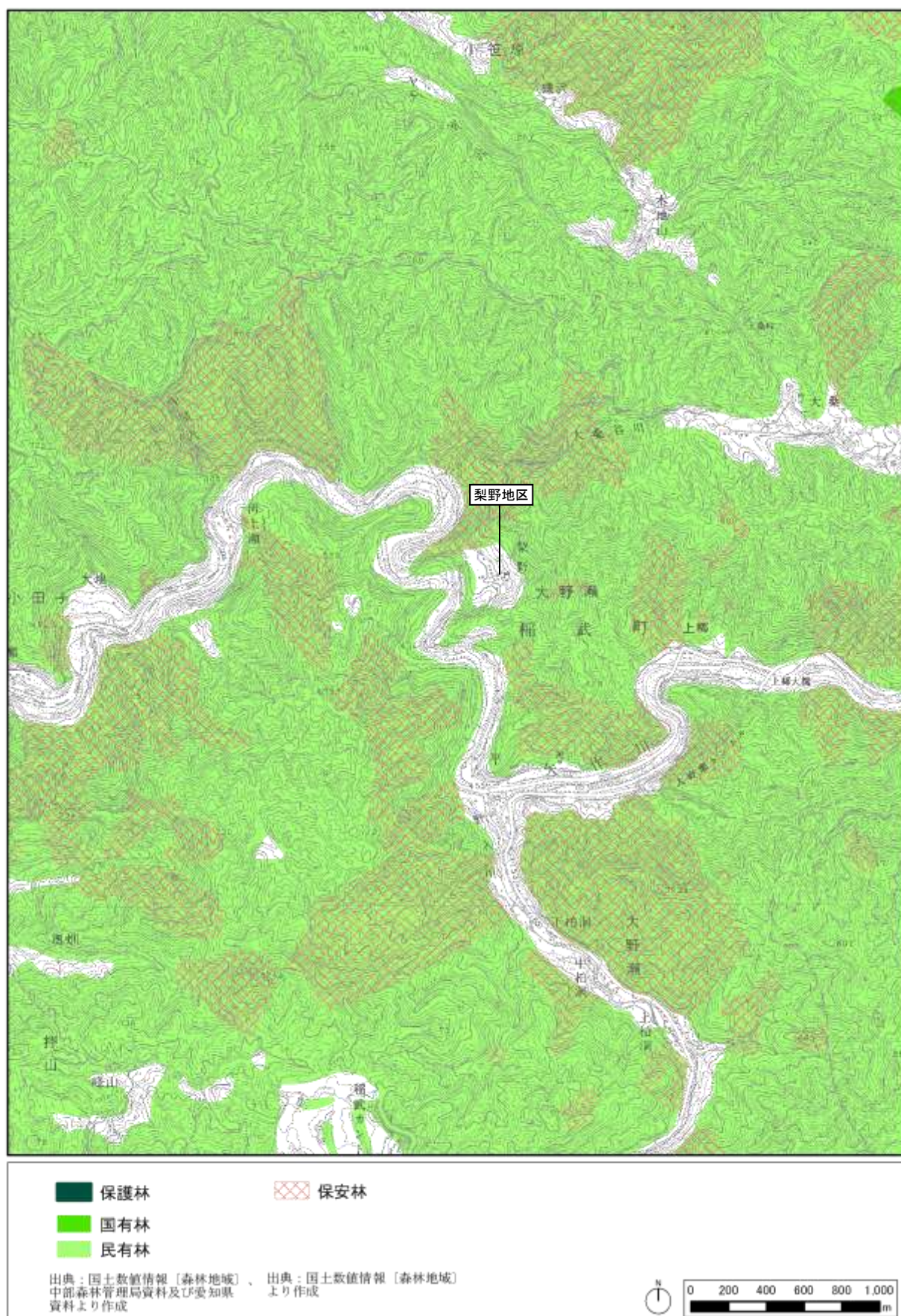


図 3-17：保安林および国有林・民有林の分布

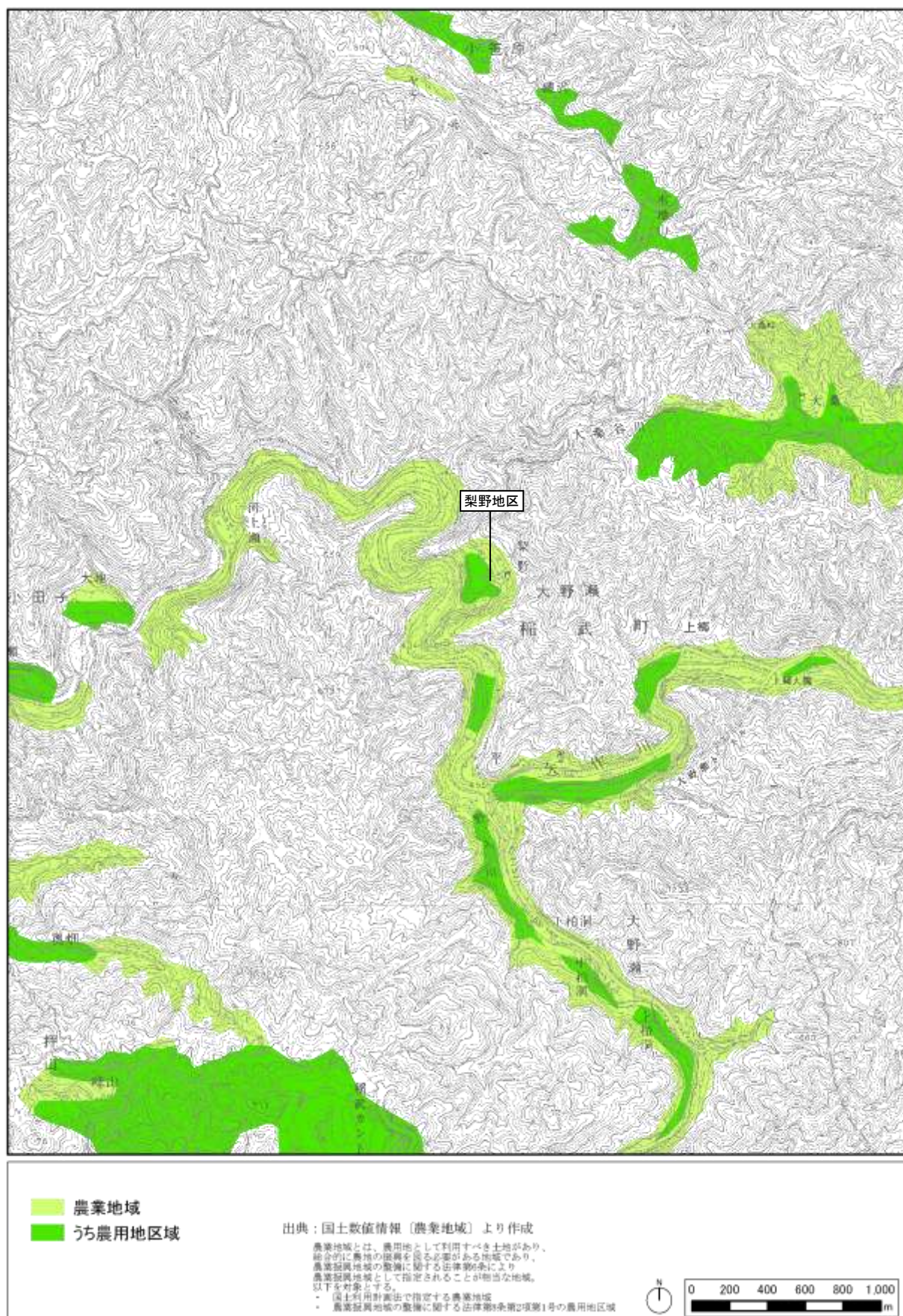


図 3-18：農業地域・農用地区域の分布